

平成30年度第1回三重県救急搬送・医療連携協議会
搬送基準専門部会議事概要

- 1 日 時：平成30年7月5日（木）18:30～20:00
- 2 場 所：吉田山会館 第206会議室
- 3 出席者数：出席13名、欠席5名
- 4 内 容：下記のとおり

事項3 傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準の見直しについて

部会長：本部会で議論する主なポイントはどのようなものか。

事務局：今後、実施基準を見直していくこととしており、医療機関リスト等、実施基準が現状のままで活用できるのかという点について、議論いただきたいと考えています。

部会長：MC専門部会の下にまた作業部会があり、そこでも検証を行っている。どこで検討をするのか。

事務局：基本は地域MCで検証いただき、専門部会の所掌に応じ、それぞれの専門部会で議論のうえ、最終的には協議会で決めることとなります。

部会長：見直すのであれば、深い議論が必要になると思うが、どうか。

事務局：今後は、各地域で検証し、見直しを行って行きたいと考えています。

部会長：医療機関リストを見直すと、分類基準、受入医療機関確保基準も見直すことになるのか。かなりの作業になると思うが。

委員：各地域で検証を行い、再度見直す必要があると思う。地域の実情と一致していない部分が多くあり、本当にこの内容でよいかは検証するべきである。

部会長：医療機関リストに載った場合、救急車はこの医療機関へ患者を搬送するということでよいか。

事務局：医療機関リストに載ったから24時間受入れるというものではありません。地域の医療体制はこれでよいのかなど、搬送データを地域で検証し、より良いものに見直しをしていけばよいのではないかと考えています。

部会長：実施基準については、今後、見直しを行う方向ということでよいか。

今後、事務局においては、見直しに着手いただきたいと思います。また、各委員においては、ぜひとも見直しにご協力をお願いしたいと思います。

事項4「救急医療にかかるICTを活用したシステムの検討について」

部会長：津地区と伊勢地区でモデル事業を行い検証をしたということだが、それぞれ異なったシステムを導入していたため、今後は新しいシステムをMC専門部会の元で検討をしていくということであるが、全国で約7割の都道府県が導入している現状はどのようなものか。運営費が高いのと、中身があまりよくなかったという認識があるが、どこの県が一番進んでいるのか。

委員：今は大阪のシステムが進んでいるようである。地域の実情に応じたシステムにする必要があり、もう少し様子を見てもいいのではないかと。

部会長：費用がかかり負担が多い。7割が導入しているが、すべてうまくいっているとは限らない。本当に有効に使われているシステムとはどういうものか、システム導入ありきではなく、導入しないことも含めて検討したほうが良いと考える。

委員：一番の課題として、操作性があり、救急隊員の負担が大きい。別途、消防司令システムのデータも入力する必要があり、そのシステムと分離しているため、二度手間となってしまっている。指令システムと連動が図られれば有効である。入力項目が多いと、医療機関、消防機関にも負担となる。

部会長：地域によってシステムが異なると、地域外搬送に効力を発揮できない。伊勢と津で異なるシステムを導入した。伊勢は患者の情報を伝えることがメインであり、津は搬送先を決めるために利用していた。どういった目的で導入するのか、しっかりと決めてから判断する必要がある。やることを前提にすることはよろしくないと思う。

事務局：システム導入ありきではなく、もしシステムを入れて状況が改善されるのであれば、導入するべきであると考えています。また、導入するのであれば、全県統一のシステムを入れる必要があると考えており、検討を始めて、すぐに導入というのではなく、しっかり検討したうえで、選択肢のひとつとして検討していきたいと考えています。

部会長：県内各地域の問題点を洗い出し、その問題を解決できる手段としてICTを活用できるのであれば、導入の判断をするなど、議論をすることが必要であると思う。その意味でも、慎重に進めるべきであると考えている。

委員：将来的にはもう少し入力しやすいシステムとか、地域にあったものを導入することが大切である。ICTは悪くなることはなく、だんだんよくなっていくため、他県の様子を見るのもよいかもかもしれない。

部会長：もう少し様子を見たほうが良いとの意見が多いが、どうか。

まず、何に使うのか、全体的な目的をはっきりしたほうがよい。前回のシステムも良かったら続いているため、前回の課題も考えた上で、次のシステムを考える必要があるかと思う。

事務局：そのような意見も含めて、操作性、今後の方針を複数年かけてMC専門部会

で検討していきたいと考えています。

部会長：ICTシステムがいいのではなく、効果的なシステム、ネットワーク作りが大切であると考えられるが、どうか。

事務局：ICTはあくまで手段であり、システムは後からついてくる可能性もあると考えており、MC専門部会で検討をさせていただきたい。

委員：地域によって状況も異なることから、他県のシステムを調査したうえで、検討していく必要がある。MC専門部会に諮ってもらうことは問題ない。今後、ICTは進歩していくことから、他の方法も検討すべきである。さまざまな場で話し合いをしていく必要がある。

部会長：提案いただいた内容について、より広い視野で検討いただくということで、よろしくをお願いします。

以上